

温州みかんの収穫に関する研究
(第1報) 収穫時期が品質に及ぼす影響

浜口 克己・村松 久雄・水流 洋
(長崎県総合農林センター)

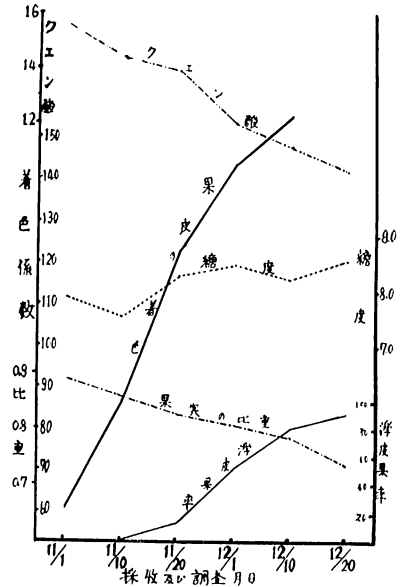
温州みかんの収穫時期の早晩は、果実の品質を左右するばかりでなく、翌年の花つき、結実にも影響し、又収穫時の労力の配分にも大きく関係して来るので、1959~61年の2カ年に亘つて収穫時期について調査した結果を第1報として報告する。

調査方法 果実の発育及び成熟の状態について、地域別に海岸部と山間部について、9月より12月まで10日置きに果実の重量、果径、果肉、皮歩合の変化について、11月以降は収穫時期における果実の品質、着色及び浮皮果の発生等について調査した。

更に11月1日に収穫果より収穫果より収穫時期別に翌年4月まで貯蔵し、貯蔵中における外観特に着色の変化及び品質をはじめ浮皮、腐敗、萎調等果実の変化を調査した。

試験結果及び考察 果実の発育状態は海岸部と山間部では果実の発育が異なり、山間部がやや遅れている傾向があり、果実の成熟期についても同様な傾向があった。即ち果実の糖及びクエン酸の増減又は浮皮果の発生状態を時期別にみた本調査の結果では、収穫の適期が海岸部にくらべ山間部は約10日間のずれがある。果実の成熟については、更に詳細に11月1日より調査した結果、第1図に示すように収穫時期によつて果実の品質は異なり、早期収穫のものほど収穫期における酸は多く、糖はやや少ない傾向にあるが、11月20日になると糖もかなり高くなり味も濃厚となる。そして12

第1図 収穫時期と果実内容の変化



月上旬までは糖もいくらか増加するが、その後は殆んど増加せず、酸は収穫期が遅れるに従つて減少している。

果実の品質に大きく影響する浮皮果の発生状態は、収穫時期が早ければ全く発生しないが、11月20日になるとわずかに発生し、12月に入ると著しく増加し、12月下旬には大部分の果実が浮皮状態になって、品質を

第1表 収穫時期と貯蔵中における酸・糖の変化

収穫時期	調査日									
	11/1	11/10	11/20	12/1	12/10	12/20	1/20	2/20	3/20	
11月1日	(1.55) 7.86	(1.64) 7.50	(1.57) 7.51	(1.24) 7.50	(1.19) 7.85	(1.15) 7.63	(0.90) 7.64	(0.65) 7.27	(0.52) 7.12	
11月10日		(1.44) 7.52	(1.58) 7.86	(1.25) 8.21	(1.23) 7.88	(1.20) 7.75	(1.01) 8.46	(0.69) 7.94	(0.58) 7.82	
11月20日			(1.44) 8.28	(1.18) 8.55	(1.22) 8.26	(1.05) 8.27	(0.85) 8.68	(0.78) 8.84	(0.60) 8.59	
12月1日				(1.20) 8.48	(1.11) 8.15	(1.07) 8.34	(0.93) 9.05	(0.71) 8.63	(0.60) 8.40	
12月10日					(1.12) 8.18	(1.05) 8.26	(0.97) 9.21	(0.79) 8.70	(0.67) 8.34	
12月20日						(1.04) 8.55	(0.90) 9.68	(0.74) 8.63	(0.63) 8.22	

上段()はクエン酸、下段は全糖

低下させている。

収穫時の着色は早期着色のものほど悪いが時期別に収穫した果実を貯蔵した場合、11月20日以前のもも貯蔵中に黄橙色程度にまでは着色するのであまり見劣りはない。(第2図)

貯蔵中における果実の糖分及び酸は、11月20日以前10日頃までのものは、貯蔵中に酸も減じ糖もいくらか増加するために、1月頃までにはその後収穫したものと大差はなくなる。しかし早期収穫のものをあまり長く貯蔵すると果汁中の糖及び酸の減少が著しく品質が低下する。(第1表)

これらのことから温州みかんの収穫は、早期出荷用および貯蔵用に分けて、早期出荷用と(12月～1月)は11月10日～20日ごろに収穫し、長期貯蔵用は11月下旬～12月上旬ごろ収穫するのが適当と思われる。

第2図 貯蔵中における果皮の着色の変化

